

○委員長（山口 勝彦）

- ・ 欠席委員連絡（芝井委員）
-

○委員長（山口 勝彦）

- ・ 開会宣告
 - ・ 議題の確認
-

1 調査事件

(1) 函館駅前東地区市街地再開発事業における公共施設整備の基本的な考え方（素案）

○委員長（山口 勝彦）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、2月9日付で経済部から資料が配付されており、その内容について説明を受けるため理事者に出席を求めたいと思うが、よろしいか。（異議なし）
- ・ それでは、理事者の入室を求める。

（経済部 入室）

○委員長（山口 勝彦）

- ・ それでは、説明をお願いします。

○経済部長（氣田 聖大）

- ・ 資料説明：函館駅前東地区市街地再開発事業における公共施設等整備の基本的な考え方（素案）
（令和6年2月9日付 経済部調製）

○委員長（山口 勝彦）

- ・ お聞きのとおりである。
- ・ 各委員から御発言あるか。

○工藤 恵美委員

- ・ 確認だが、2階、3階が公共施設の整備ということだが、この整備事業に関して、10月下旬に考え方の成案化をして、プロポーザル準備・選定、基本計画——これは2階、3階だけに関して市がプロポーザル方式で決めていくということなのか、詳しくお聞かせ願いたい。

○商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ プロポーザルの対象となる場所は基本的には2階、3階になるが、3ページ目の再開発事業の概要をご覧くださいと、公共施設としては1階のエントランスというものもある。こちらはエントランスなので、今議論したいと思っている公共施設の内容というところではないが、この辺の部分についても、併せてプロポーザルを行うかどうかというのは引き続き検討し、その内容もちょっと確認していかなければならないと思っているが基本的には2階、3階フロアのプロポーザルになる。

○工藤 恵美委員

- ・ わかった。
- ・ ビル全体というか、建物全体では、民間の方々が——準備組合だろうか——設計から施工から全

部決めるわけだろう。その中に市が決めた業者が入るということで、整合性は取れているのか。

○商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 7ページのスケジュールをご覧いただくと、緑色で書いている再開発事業というのがあるので、そちらの方では本体工事として進めていくことになる。本体工事の中では公共施設の大きな枠組みの部分だけは工事していただくが、その中身については、こちらの市の方でプロポーザルで決定した事業者、そちらの方で進めることになるので、工事自体は連携して進めることにはなるが、それぞれ別になる。

○斉藤 佐知子委員

- ・ 今回の資料大変わかりやすくいいかなと思っている。最後の8ページの駅前・大門地区における各種計画。これだけのことが関わっているというのを一覧にしてくださったのも、大変わかりやすくいいと思う。その中で、この棒二森屋跡地がどういう役割を果たすのかということで、全体が見えて大変いいと思う。
- ・ 1点、まずは予算というかお金のことをちょっとお聞きするが、1ページの新たな事業計画に基づく政策決定内容で補助金の支出70億円のうち市が2分の1だから35億円。その他に公共施設整備の床の購入に約10.6億円。それと市民広場の整備負担に最大3.3億円は市が負担かになってというのが書いている。それと、6ページ。公共施設整備について、床の購入の他に当然内装だとか備品購入の費用とかで約25億円を試算していると。合わせてやっぱりだいたい70億円ぐらいは、函館市で今のところこれに関して補助金というかそれを支出していくという考えで、まずはいいのか。

○経済部長（氣田 聖大）

- ・ 金額に関してのお尋ねである。1ページの再開発事業と公共施設整備にかかわる費用として掲載していて、現時点で補助金としては総額で70億円。これに床の購入費で10.6億円、市民広場整備で3.3億円ということで、②番の公共施設の床の購入10.6億円は、6ページの右下25億円の内書きというか、10.6億円とその他内装も込みで25億円というふうにしているので、前回の委員会でも申し上げたが、総額でいけば70億円足す25億円足す3.3億円ということで、総額ベースでは95億円をちょっと超えるという。それで、すべてが2分の1ではないだろうけども、概ねその半分というふうに捉えれば、45億円から50億円というふうな現時点ではざっくりした概算になるが、そういう試算ということになる。

○斉藤 佐知子委員

- ・ わかった。
- ・ 今現在だいたいそのぐらいの額ということで、これができるのはまだ先なので、現在この物価高騰の折だから、建材やら人件費がこれからどんどん安くなっていくということはほとんどあり得ないので、ますます市の負担は増えていくのかなってというのはちょっと思っている。
- ・ それと、5ページの公共施設においてのいろんな意見を聞いているというお話だったが、この公共施設に関する市民等の主な意見は令和4年度に実施している。私もこの令和4年度の実施時には参加もさせていただいた。ただ、あえて言わせていただくと、この令和4年度のときは公共施設の5施設をその中に入れると、もうその話ばかりと言ったら悪いが、それがすごく先行していた。それ以外の他の要望だとかそういうことよりは、図書室のことやら女性センターとかもう児童館を入れ

ないとか、そちらの5施設の話が、私は主になってたかなと思っているので、なかなかそのことを、いやいや説明会を開いて市民の皆さんから意見を聞いたというふうには、ちょっと言い切れないのではないかというふうに思っている。

- ・ なのでこれから、今、経済部がこういうふうにお示したものでしっかりと——改めてと言うか、公共施設入らないところあとはまだ検討中のところがある。そこだけに特化するんじゃなくて、やっぱりしっかりと改めて市民とか関係団体から意見を聞くという形で押さえていって欲しいなというふうに思っているので、よろしく願います。

○池亀 睦子委員

- ・ 言いたいことを斉藤委員も言っていたいて。物価高騰また経済の安定の行方が本当に見えない中、この間の予算特別委員会でもこれからいろんな調査をしたり、そういう経済面の柱をしっかりと函館市としても調査をして立てるといふ状況もあるが、そういった意味ではかなりの高額である。
- ・ 今、亀プラにいろんな会合で行く。たくさん市民が来ている。本当に地域の居場所になっている。大門地区になると、函館市の今の人口動態の状況を見ると、やはり居住地から非常に遠いということもある。そういう中で、反対ではないけれど、これだけの高額のお金を投資していくってということはやはり失敗は許されないって言うか。そういう意味で、例えば今斉藤委員からも出たけれども、この令和4年度のときに、突然いろんな公共施設を盛り込んでいくって言うことで非常にハレーションが大きかったので、私もかなりお電話いただいた。一体どうなっているんだって言うことで。
- ・ 方向性って言うのはもう出さなきゃいけない時期に来ている。いつまでもこの令和4年度に説明して、女性センターもちゃんとあそこに行くよとか、ふらっとDa i m o nの機能もつけますよとか、全部そういうふうの説明されてたからね。今こうやって浮いたままでこれを進めていくことはできるのかって言うところが、非常に懸念される。もうこの女性センターの機能だとか——ふらっとDa i m o nに関しては居場所作りで、そこは今の説明でいくと機能はちゃんと残れるのかなって言うのは思う。
- ・ 女性センターとか東川児童館について、結論を出す時期についてどういうふうを考えているのかお聞きする。

○商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 統廃合で今継続して検討するとしている2施設1事業、こちらの結論については、これから市民説明会等の中で併せて改めて皆さんの御意見とかを聞いていかなければならないと思っており、各関係部局とも、改めて協議を——これまでの市民説明会だとか意見とか当然それも踏まえつつだが、協議をしてということがあるので、それを踏まえると、だいたい今この素案を成案化するのは10月頃のスケジュールを予定しているので、その成案化のタイミングでお示しできるのではないかと考えている。

○池亀 睦子委員

- ・ わかった。
- ・ 記事にもなるから、市民、関係していた方々とかは、どうなんですかっていう問い合わせも当然ある。しっかりこれは市が決めている床ベースで本当に何ができるのかって言うところはやはりもっと検討した上で市民にも説明しなきゃいけないし、また、意見をもらって早急にこれはしっかり方

向性はね——やはり女性センターの老朽化というのは半端じゃないから、新しい方向に行くなら行くで——名前自体も男女共同参画センターとかいろいろ検討すべきだっていういろんな今まで意見ももらっているところでもあるし、エアコンの機能もなくて、働いている人もボランティア活動をしている人たちも大変な思いして去年の夏なんかも越えている。ですから、やはりそういう現状をしっかりと踏まえながら、機能をちゃんと移転させるのかどうかとか、新たにどうするのか、もともとは青年センターと女性センターを建て直すっていうのも出してたから、そこをいきなりここに持っていくっていうことになったから、その辺はしっかり検討をしていただきたいなというふうに思う。それはもう思いをしっかり受けとめていただいて。

- ・ ガーデンシティ函館のこのプランと一緒に進んでいくので——今やっぱり気候変動を意識したグリーンツーリズムとかね。やはり建物を——東京なんかもう渋谷の今の開発見ると、かなりこの緑の本当にすごいなっていうくらい植樹っていうか、樹木を取り入れて——この辺に関してはもうちょっと何か考えているのであればお聞きしたい。

○商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ ガーデンシティ函館という計画というかそういうのもあるが、今この時代なので、環境ということに視点を置いた整備というのも重要になってくると思う。
- ・ ただ、公共施設については中身がまだ決まっていないというか、これから成案化するという段階なので、具体的なしつらえというか、そういうものについてはその先になるが、当然そういう観点も踏まえながら進めていかなければならないと思っている。

○池亀 睦子委員

- ・ わかった。
- ・ 市民の憩いの場もあるし、建物を経営者の方にはしっかりそこは意識して点検していく必要があると思う。
- ・ やはり気候変動や、グリーンツーリズムなどもしっかりやっていく中でやっぱり要望していかなくちゃいけないっていう——だから何か一つ建てるっていうところに集中ができなくて、いろんな環境、また気候変動に影響すること、その辺もしっかり函館市としては意見を持って対応していただきたい。これはちょっと言っておきたいなと思った。

○荒木 明美委員

- ・ 7ページ目の市民などの意見聴取のところだが、学生など若者からの意見聴取というふうに書いてあるが、私この地域に住んでいるので学生がいかに少ないか、若い人が少ないかっていうことも感じているが、今聴取しようとしているその若者というのは、だいたいどういう方々なのかっていうのをちょっとイメージを伺いたい。

○商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ この若者と言うと主なターゲットとすると、高校生や大学生が中心になるかと思うが、当然意見聴取をする際には、それよりも下の層、中学生だとかあるいは小学生、今後この施設を使うだろう年代も含めて意見聴取した方がいいのではと。
- ・ まだ想定段階なので詰めてはいないが、繰り返しになるが、基本的には、中心には高校生や大学生が若者で、その下の層についてもなるべく幅広く聞きたいなというふうには考えている。

○荒木 明美委員

- ・ おそらくこの地域に学生、幅広く高校生とか大学生に聞いたとしても、このエリアに来る人たちがいないと、一般的な回答は得られたとしても、実際にできたときにちゃんと来るのかどうかというところを、ある程度ターゲットを絞った方がいいんじゃないかなというのと、あともしその下の層になると、小学生になるとこのエリアってもう校区が決まっているので、その子供たちが、例えば児童館機能が何か付加されるのであれば歩いて来れるその子たちに聞くのか、それとも親と一緒に来ることを想定してるのかとか。
- ・ 今、若者のところを聞いたんですけど、意見聴取の想定というところに他にも、例えば地域だとか既存施設の利用者だとかいろいろあるんですけど、意外に時間がありそうで10月って私ないんじゃないかっていうふうに実は感じている。
- ・ このパブリックコメントも10月上旬に聞いて10月下旬にもう成案化ってことは、このパブリックコメントで何か意見が出てきたとしてもそれが実際に反映されるかっていうとちょっと難しいんじゃないかなと。
- ・ そう考えると、すごく大事なのは市民アンケートの実施、LINEだとかウェブとか、こういうところで具体的な案が出されて、それを成案化の中に盛り込んでいただけるのかどうか。それを量でLINEのアンケートとか出てくると思うが、定性的に把握するために実際に学生に会うとか、商店街の人に会うとか、地域の人に会うとかっていう。その意見聴取のプロセスっていうか、どうやって聴取をしていくのかっていうところはすごく大事になるんじゃないかなというふうに感じているので、ぜひそこを、しかも有識者による検討委員会も設置するかもって書いてあるので、結構盛りだくさんで、いろんな意見が絶対出てくると思うので、それを整理するプロセスっていうのをちゃんとスケジュールに落とし込んでいただけたらありがたいなというふうに思っている。

○野沢 友志委員

- ・ 3ページの右下に平面図があるが、車を止める場所50台のタワーパーキングとあと近くのローソンの向かいにタイムズがあつたりと、車を止める場所はそれなりに確保されているのかなというふうに思うが、自転車、駐輪場の計画というか、まだちょっと案段階だと思うが、自転車を止める場所のお考えはどのように検討されているのかお伺いしたい。

○商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 駐輪場についてだが、公共施設として市で整備するということは考えていないが、再開発事業の本体の事業の中で検討していただくことにはなるが、まだその中身については詳しくお聞きしていないところなので、そういう要望があったということはお伝えしていきたいと考えている。

○野沢 友志委員

- ・ 5ページのアンケートの学生さんのところで、赤字にもなっているが、自由に勉強ができる場所、軽食OKで勉強ができる場所ということで、やっぱり喫茶店だとか、——あとは昨日用事があってシエスタの4階のGスクエアに行ったが、Gスクエアも満席で学生さんたちがもう本当にたくさんいて。あとそこに月曜日と金曜日にわらじ荘にいた下沢杏奈さんたち大学生が、中高生の話を聞きますカフェみたいなのをやっていたりした。
- ・ 去年の秋にまちづくりセンターで、西高の生徒さんたちがそれぞれグループワークの発表会——

たしか都市建設部の方が絡んでいたんですけど——それに行ってみたら、やっぱり西高の生徒さんは西部地区の周辺で集まって勉強できる場所がないということをおっしゃっていた。

- ・ その方々の卒業した後になってしまうが、そういった西高の生徒さんが函館駅を利用したりだとか、自転車で通るあとに、新しい駅前のできる場所がそういった場所になっていけばいいなって思っていたので、自転車の整備についてはぜひ願います。

○板倉 一幸委員

- ・ 皆さんからお話があり、大変参考になる御意見なんかたくさんあったかというふうに思う。
- ・ 一つだけ先にちょっとそもそも論になってしまって大変恐縮だが、今回の東地区の市街地再開発事業だが、中にも書いているけれども、駅前・大門地区のにぎわいの創出、こういったものを作っていくんだと、こういうようなことでいろいろこれまで中活の事業だとかやられてきたけれども、果たしてそれが、これまでの事業が成功してきたのかどうか。例えば、ハコビバだとかあるいはキラリスだとか、ああいう施設を作るが——中に入ってるキラリスなんかは施設が活用されてるということは理解するが、そもそもそういう事業そのものが今回こうやって再開発事業や公共施設整備を行っていく、それが本当に市民の活用というか、にぎわいというか、そういうものになっていくのかどうかということの疑問がまずあるのだが、その辺についての基本的な考えもう1回お聞かせいただきたいと思う。

○経済部長（氣田 聖大）

- ・ 改めてこのこのエリアのにぎわいについてのお尋ねである。今日は公共施設の中身ということが議論のポイントになると思うが、いずれにしても、この駅前・大門地区のお話というのは、ちょっとお時間がかかって、なかなかもしかしたら一過性になっているものとかそういったものもあるかと思う。
- ・ 先日、予算特別委員会分科会でもお話させていただいた経済振興計画というのが、我々これから取り組もうとしている。そういった大きな動きの中で、やっぱりこの駅前の顔、函館の顔ということであるので、ここは過去の施設整備の部分についての検証、こういったものも必要だろうが、今はやっぱり皆さんこの駅前・大門地区の再開発事業、さらには公共施設の整備はすごく期待もしているし、注目度も高いし、我々も何とか早く、やはりずっとこのままっていうわけにはいかないと思う。
- ・ 市民の皆さんの大きな声、さらには財政負担のこともあるが、この辺はやっぱり大きなプロジェクトなので早く進めたいという思いがある一方で、皆さんに喜ばれる、望まれる施設っていうのは十分議論をしてやっていきたいと。その上でこのエリアがにぎわっていくということが最終目標であるので——参考で今日掲載したいろんな計画もある。こういったものやっていく、まだ残っているものもあるし、新たにこういうものが必要だということも出てくるのかなというふうには思っている。そういったものも連携しながらやっていきたいということで、市としては考えているので、当然やっぱり議会の皆様とも議論をしながら進めていきたいというふうには考えている。

○板倉 一幸委員

- ・ 今日はその議論でないのだからこれ以上申し上げないが、ただ、期待が大きいからとにかく早く進めようということだけでは駄目だというふうに思う。やっぱりこれまでやってきた事業がどうであったか、それが成功してもうこれで大丈夫だというのであればいいが、そうでないものも含まれてい

るわけだから、そういうことをどう検証して、それを克服するためにというか、そうでないものを作るためにはどうしたらいいか。これはやっぱり議論していかないと、作ったはいいいけどもやっぱり人來なかつた。こんなことでは、やっぱり責任を問われるということになるので、そこはしっかり考えていただければなというふうに思う。

- ・ 書かれていることについて何点か申し上げたいと思うが、先ほどもお話が出たが、市民の皆さんの御意見をお聞きするという事になっているわけだが、前出た意見はこうだったっていうことが書かれているけれども、先ほど斎藤委員もおっしゃってたけれども、この意見は前の市民説明会の際の意見であるから、図書館を移転をするといったときにどうするかとか、あるいは女性センターを統合というか、そっちでなくて新しい施設にといったようなときに常時それが必要だとか、こんなような意見が出たということで、今回はまったく新たな意見と新たな考え方に基づく施設ということになるわけだから、そこはやっぱりもう一度しっかり市民意見を聞いていただきたいし、その際に、市からこう考えてるんだけど皆さんどうですか、というような考え方の聞き方ではなくて、やっぱり何が求められているのか、何が必要なのか。それはそれぞれの年代やあるいはその層によって考え方が異なるでしょうから、そういうことにやっぱり丁寧に意見を聞いて、それを参考に、新たな公共施設のあり方を考えていくということが必要だというふうに私は思うから、それはそういうことをお願いをしたいというふうに思う。
- ・ 多機能型の施設というか、多機能型の公共スペースというようなことだが、亀田交流プラザの話、先ほど池亀委員からあったが、私も亀田交流プラザを作るときにいろいろ意見をさせていただいたけれども、ああいうような形でいくつもの施設を統合するような形で作るっていうのは、私は賛成できないというか、間違っているというふうに思う。
- ・ もともと亀田交流プラザは市民プラザ構想があつて、亀田地域に人が集まれるところ、市民会館的な施設がないからそこを作ってくれというのが亀田地域の住民の要望でしたし、町会なんかもそういうような要望をずっと繰り返してきたわけで、それができ上がった。だけど、児童を対象にした施設あるいは高齢者を対象にした施設だとか、普通の貸館の施設だとかということで、たしかに施設がないから人がたくさん来てかなり使われているというようなことになるが、私は今回のこの駅前前の施設というのはそういう施設ではないというふうに思っている。
- ・ 先ほどの説明だと「動」と「学」とこういうようなイメージがあるというような説明だったが、私は分けて整備をするというようなことよりも、一体としてどういう施設にしていくかというような施設が必要でないかというふうに思う。
- ・ 今、函館に何が足りないかっていうことをお子さんをお持ちの若い世代の皆さんに聞くと、子供たちを連れて遊びに行く場所がないというようなことをまず申し上げる。春休みどこ行くかとか、夏休みになったらどこ行くかとかっていう。それがいいのかわからないけれども、学校での休み明けの会話というか、夏休みどこ行ったよとか、この休み週末はどこ行ったよってことが子供たちの間で言われてるっていうことをよく聞くけれども、そういうような施設に特化してやっぱり施設整備していくということも一つの考えだというふうに思うが、その辺についてはどう考えるか。

○経済部長（氣田 聖大）

- ・ 施設整備の考え方についてだが、令和4年度に意見聴取した中で、確かにもう時間も経っている

し、当時は、先ほど皆さんからお話あった通り統廃合についての議論がメインだったかなというふうに思っている。

- ・ 今回素案をつくるにあたって、市役所だけの思いだけでどんとやるっていうことは全く思っていないで、まずゼロからスタートというよりも、令和4年度の意見もある程度こういう声があるんだなと。その上で、たたき台ということで今回出させてもらった。
- ・ これも動く学ぶというテーマも、あくまでもイメージであるし、アイデアの一つだと思っていたら、こういうアイデアを皆さんからいただきたい。ただ、これは意見聴取のときにもポイントを押さえて意見をいただきたいなというふうに考えているのは、まずこの2フロアの2千平米の中で何ができるかということになる。おそらく幅広く意見を様々ということであれば、いろんなアイデアが多分出てくると思われる。それが結果的にそこの2千平米でできるかどうかということにもなるので、まずはこの基本的には2千平米の中でどれが一番いいか、何が望まれてるかというところで、全くゼロから、さあどうでしょうかっていうことより、まずはイメージを湧かせるために我々このたたき台ということを示させてもらった。ここに掲載されていないもので、もしかしたらこれはいいなというものがあれば、さらには皆さんが望むものであれば、そういうふうにしていきたい。
- ・ また一つの固定のものをどんと置くということも、選択肢としてはないわけではないと思う。ただし、財政負担を考えたときに、やっぱり高い買い物というか大きな事業費が生じる。また、それがおそらく30年、40年使っていく施設になると思う。時代の流れも考えたときに、そのときはこういう施設が望まれたということであっても、息長く皆さんが使える施設かどうかというのは、これは正直まだわからない。そういったことも踏まえて、今回はフレキシブルということで時代の流れに合わせて、例えば5年後、10年後なんか——今でもちょっと掲載しましたけどボッチャ、モルックなんか、じゃあ10年前、20年前にそういうのって流行ってたかというところとそうではないわけだから。そういったところで時代の変化に合わせて、そのときにこういうのやりたいねって言ったときに、じゃあこういう場所がありますよということで——もしかしたら多少必要な工事費がかかるかもしれないけれども——そういったことを、あったらどうでしょうかねということでもまずはお示ししたところである。
- ・ 板倉委員が今言われたように、いろんな考え方が多分出てくるかもしれない。それはそれで一つのアイデアだし、そのアイデアとして市民の皆さんがそっちの方がいいよねって言うのであれば、それは議論をしていく必要があるかなというふうには考えている。いずれにしても、まずはアイデア——たたき台を見ていただいて、こういうのもいいんだっていうことを知ってもらった上で、いい意見をまず出していただきたいなというふうに、我々はそういうふうに期待するので丁寧に説明しながら進めてまいりたいと考えている。

○板倉 一幸委員

- ・ 市民の皆さんの声を聞いてということである——ただ、前の市民説明会のときもそうだが、ここにも、その2階、3階のイメージっていうか、こういうふうな例を出して、そうすると市民の皆さんは、こういうのがいいのかどうか、これの他に何かあるのかっていうようなことへの考えになってしまったら、そういう意見が、少し広がりやを欠くっていうか、そういうようなことになるので、そこ

は気をつけて意見を聞くということをしてほしいなというふうに思う。

- ・ 私自身は、先ほど荒木委員もおっしゃってたが、例えば若い方、学生さんとかっていうのも、Gスクエアは確かに居住地と学校との中間地点だったり、あるいは通り道だったりっていうことで使いやすい場所にあるというふうに思うが、駅前・大門地区ということになると、要はわざわざ来てもらうというような形になるわけだから、果たしてそういう利用が——できれば来るとしても、来るとしてもそういうような位置づけにあるのかっていうのを、少し私は疑問だなっていうふうに思う。
- ・ これも申し上げておいた方がいいというふうに思っているが、児童館や女性センターもできればそれぞれの施設として老朽化をしているなら、改修なりあるいは建て替えるまでの予算的な措置まで言えるかどうか分からないけれども、すべきだと。施設の中にそういう機能を持たせるということではなくて、そういう施設としてしっかり使っていただくというようなことが、私は必要だなというふうに思っている。特に地域にあるその施設が、地域の中でのコミュニティの核って言うか、そういうような役割になっているわけだから、そういうものはできるだけなくさないで、地域の中でやっぱり活用していくと。活用していくというか、全体で活用するのだが、地域の中に存在するという意義がやっぱり重要だというふうに思う。
- ・ それから、観光客の皆さんとか、ビジネス客の皆さんに利用していただくのは、私は市民広場でもいいんじゃないかなというふうに思う。せっかく市民広場もあって——この話とはちょっと違うけれども、お店があって、そして皆さんが集える場所っていうか、憩える場所を作るわけだから、それはそれでいいんじゃないかなと。公共施設はどういうような公共施設を作っていくということが必要でないかなというふうに思うが、その辺のところ、市民広場と公共施設の関係はどう考えているのか。

○商業振興課長（高橋 紀子）

- ・ 市民広場については共用部分ということで皆さんに使っていただくということになる。当然、市民も含め、観光客も含め、利用しやすいような快適な空間ということで、再開発準備組合の方で検討することになると思う。
- ・ 一方で、広場を使って公共施設と連携した何かイベントをやったりとか、そういう活用もしていかなければならないと思っている。今後それはソフト事業ということになるので、その中で検討していきたいと思っている。
- ・ 観光客というところは、市民広場の方でいいのではないかという意見だが、その辺についても、今後皆さんから意見聴取していく中で、そういう声も多くなればまた検討することになるかと思うので、今後、引き続き検討していく視点かなと思っている。

○板倉 一幸委員

- ・ わかった。
- ・ それで先ほど補助金というか市の負担のことなんかのお話があった。総額で言えば95億円ということをおっしゃって、どれだけ市の負担になるかっていうのはそれぞれ補助の割合によって変わってくるだろうけど。さっきもお話があったが、資材費とか物価高騰によってそういったもののがかなり高くなって、今回の新たな計画っていうかこれ見直しもやっぱりそういうことが原因になって

るわけだから。そうすると、これから実際に事業を行って建設なりしていく上で費用が増えていくと、今予定している金額よりも増えていくということもあり得るというふうに考えておいたほうがいいのか、それとも、もうこの金額の中で何とかやりくりして、それで資材だとかそういったものが、例えば建設費が高くなるというようなときには少し中身を工夫して安く抑えろとか、そういうようなことにするというふうになるのかどちらなのか。

○経済部長（氣田 聖大）

- ・ 再開発事業全体の費用ということになるかと思うが、資材高騰ということも今後は当然やっぱり見込まれていくのかなど。今後公共施設2フロアの整備、2階、3階のフロアが、ある程度こういうイメージというのが固まってくると、具体的によりどれくらいかかるかという——今はある程度想定される金額で積み上げているのかなと思うので、上がっていく方と、精査して工夫するところとが当然出てくると思う。市も補助金を出さずという立場にある中で、これがやっぱり財政負担が将来にすごく関わってくるということになれば、そこは一度議論になってくると思う。
- ・ 今の金額の中で納めろということになれば、もしかしたら仕様というか中身の2フロアは今購入しているが、先ほどの千平米じゃなくて、もしかしたらちっちゃくなるとかそういったものになる。例えばの話だけれども。そういうふうになったときに、本当にそれでにぎわいが創出するかどうかってそういうことになると思うので。
- ・ 再開発事業の全体事業の部分については、今鋭意準備組合の方で数字の精査もしていると思う。その中でどんどん物事が進んでいく中で、その時点での費用なども当然やっぱり協議をしていかなきゃならないし、市で決めることではないので、当然やっぱり議会議論もしていくことになるので、その辺も状況次第できちんと議会に報告しながら進めてまいりたいというふうには考えている。

○板倉 一幸委員

- ・ 本体の全体の整備費というか、それも当然そういった資材の高騰だとか建設費の高騰に左右されるけれども、この公共施設も当然同じように、これは反対に市側が工事を行うわけだから、そういう意味でその影響を受けるということになる。その辺のところはまだもう少し時間があるから、実際にどれだけの経費を必要とするのかというのは後ほどまた改めて出てくると思うので、その時にまた議論するが、ただ、今部長おっしゃったように、高くなったからちょっと小さくしようとか機能変えようとかっていうのを、そのときになってどうしようなんていう話にきつならないわけだから、その辺のところを十分やっぱり考えながら、どういう形にしていくのか、どういう施設にしていくのかということを考えなければならないだろうというふうに思う。
- ・ 先ほどまでの2千平米で何ができるかというようなことで、あるイメージを前提にしてやるわけじゃなくて、皆さんからいろいろ意見を聞きながらやっていく、考えていくということだから、改めてまたそれについては市民の皆さんの意見をお聞かせいただいたあとだとか、そういう議論のできる場があるというふうに思うので、とりあえず今日はこれでわかった。

○紺谷 克孝委員

- ・ 若干時間をお借りして確認したいこととお話ししたいと思う。
- ・ 今回のこの素案の考え方を見て、5ページにあるように、非常に市民の意見など、各階層だとか説明会だとかっていうのが、非常に丁寧に書かれており、非常に進め方としては素晴らしいんじゃないかな

いかというふうに思う。各部局でこういう進め方をしてるのはあまり今まで見たことがないというふうに思って、進め方としては、なかなかいい考え方で進められているというふうに思う。

- 先ほどの意見でもなかなかきちんとした提案になってないんじゃないかという議論もある。しかし、やはり市民の意見をさらに十分反映させたいという気持ちになると、提案自体がこうだということではなくて、こういうことの条件があるよというような提案の仕方になると思う。まだ少し期間もあるし、こういう提案の中で部長もおっしゃってたように、市民の積極的な意見を取り入れていくということは、今後また2回も説明会もやるし、専門家の意見も聞くということで、どういった意見を取り入れていくかということは、またなかなか難しい問題もあろうかと思うが、まずそういうことでなされようとしていることについては、なかなか手法としていいんじゃないかというふうに思っている。
- そういう中で、今5施設の統合問題がずっと議論になって、それに特化しちゃったという傾向があるという話もあったわけだが、依然としてやっぱりその問題は、今も委員のおっしゃった通り、重要な問題だというふうに思う。
- 図書館機能については、準備組合からもそういう機能どうだという要望があったというふうになっていたが、今回の中では書籍やガイドブックの充実ということで、素案として提案されているわけだが、今の市内の例えば亀プラとか、いろんなところで書籍コーナーみたいなものがある。青年センターもあるし。だけど活用の仕方、利用の仕方が本当にうまくいってるかということになると——亀プラなんか当初バスの待合室にするというような話があったり——それから今見てみると、学生の人たちが勉強してるっていうような姿も非常に多いと。その中で読書できるかっていうことで、狭すぎるんじゃないかと。書棚から本を取るのが大変だというような苦情もあるし。それから書籍類を見ても、やはり非常に市民の満足を得るような数が揃ってないと。郷土の資料といってもわずかししか入ってない。函館の郷土資料なんていうのもね、だから非常に不十分な形でなっていると。まして青年センターの書籍なんていうと、2千冊から3千冊あるっていうことで、ほとんど見てる人見たことない。貸し出しはされてるというふうには聞いているが。そういうことで、どういうイメージで——これは当初準備組合もそういうふうには要望しているということもあるから、どういう図書館の機能をここに設置するのかということが、非常に大事な問題になってくると思う。
- 私どももこの西部地域でアンケートをとり、600通ぐらい返ってきた中では、やはり千歳図書室は残して欲しいっていうのが非常に強かった。同時に移転してもいいよと、統合してもいいよっていう意見の中でも、今の千歳図書室の機能をそのまま残してほしいと。それくらいのっていうのが非常に多かった。従って2千平米っていう平米数言われたけど、この中に仮に千歳図書室と同じような機能を移転すると、かなりのスペースをとってしまうと、図書館の機能でほとんど占めてしまうという可能性がある。そういう点でなかなか難しいんじゃないかというふうに判断して、かといって、どういうコーナーがいいのかっていうことについては、さらに市民の意見を聞いていく必要があるというふうに思う。一例としては私も札幌の白石区のえほん図書館というのを見たことがある。これは大したスペースでもないけれど、もう非常にお母さん方と子供さんたちがたくさん来て、貸出部数も物すごい数だということで、市内の若いお母さんお父さん方と子供が一緒に楽しめる、本に親しめるという機能があるということで、これは一例だから、何もそれに固執はしてもらいたくない

いけれども、そういうのもいろいろ調査してスペースは大して必要はないし、ぜひ今まである図書コーナーとかそういうことでなく、新たな発想で、ぜひ市民の意見を聞きながらお願いしたいというふうに思う。

- ・ これも今議論されたが、女性センターとそれから児童館の関係、これは古く、そういう施設だということではもう最初からわかっていることで、だけれども、どういう形で今後意見を聞いていかっていくのもなかなか大変だと。私どもの調査したときには、やはり女性センターも児童館も、積極的に移転させてほしいという意見ではなかった、働いている方たちも。そういう点で、児童館自体はその地域性が非常に大事だということで、地域の中で子供たちのいる状況の中でその地域の中で児童館が必要だというふうになると思う。これも、むしろ児童館は亀プラのときも美原児童館を吸収したという経過もあるから、その辺を検証しながらぜひ進めていただきたいというふうに思っている。
- ・ 児童館と女性センターについては、今後検討、今でもまだはっきりしないということだが、これがなぜなかなか大変だということについては、もう少し詳しくちょっと説明していただきたいと思う。

○経済部長（氣田 聖大）

- ・ 引き続き検討を行う施設の児童館と女性センターだが、これは同じ建物にあって老朽化ということで、我々経済部とすれば2千平米の中に駄目だとか来てもいいとか、この段階で経済部としてやっぱりまだ判断することはできないと。利用者の方あるいは所管の部局、こういった動きもにらみながらということで、現時点では谷地頭とか千歳みたいに、統廃合しないという考えを断定的に言うタイミングではなかったと。これから意見聴取に入っていく中で、同時並行で、この利用されてる団体の皆様からの意見聴取をした中で、2千平米の施設というのは、今コンセプトとすれば多機能型施設である。特定の施設ということはなかなかイメージしづらいものだが、そういったこともあり、どういうふうによればできるのか、これができないから駄目だとかって、そういったところももう少し深掘してやっていきたいなということで、今回は引き続き検討というふうにさせていただいた。
- ・ 併せてふらっとDa i m o n事業については、講座や運動などこれまで実施されてきたものが可能となるということで、これは我々も少しでも運動できるような機能は入れたいということで、6ページにもちょっとそういうのを記載させてもらっているんで、これは十分あとは機能としてどこでやるとかっていうことなので、前向きにどうか、ここはやりたいなというふうには思っているが、それも意見を聞いてみたいなど。
- ・ 東川児童館と女性センターについては、それぞれの所管部局、利用者の声も聞きながら同時並行で考えていきたいなということで、少しお時間いただきながらということになるので、いずれまたそういう議会議論も含めてやっていきたいなと思うのでよろしく願います。

○紺谷 克孝委員

- ・ わかった。なかなか難しい問題なので、もう少し時間を置いて市民の意見などを聞いていただきたいというふうに思う。
- ・ 6ページの「動」と「学」の一番最初に可動棚云々というのがあって、多様な使い方をするという事例が出てたが、まだアネックスがあった頃、私あそこに行ってテナントがかなりなくなって広場だけは残ってるという中で、東京から来ているライブの小さな団体があそこで催し物をしてた。

そのときに、その方にこの使い心地はどうですかというふうに聞いたら、やっぱり小さいいろんな文化団体とかライブする、東京からすぐ来てライブするっていうふうになるとあその場所が一番いいというふうに聞いた。なぜかという、新幹線からもまっすぐ来てそして空港からもまっすぐ来れるから、この場所が非常にライブとかそういうのを来てやるのは函館では最適だ、というふうに言ってた。私それを見て、今の提案のいろんな形で空間活用してパーテーションやってそういうものをしてもらうっていうのは非常にいいんじゃないかと思ってね。市内だけでなく、東京とか大阪とかそういうところから来て、そして、大きなやつでなくて小さな数十人程度のね。私はそのときに見たら、みんな東京から来た人たちが踊って——どういう催しか私よくわかんなかったけど——そういうことやられてると。だからそういうこともいろいろ検討して、これ図書館やるということとなるとえらい金かかるけど、パーテーションで区切ってやるっていうのはそんなに金がかかるような感じではないから。先ほど財政的な問題があったけど。そういうことも工夫してぜひ検討していただきたいというふうに思う。

- ・ これからこのスケジュールでは10月下旬の公共施設の最終的な成案が出てくるっていう段階で、一定程度期間があるんで、この期間ぜひ説明会等を開催して市民の意見をもう少したくさん聞いていただきたいということを要望しておきたい。

○委員長（山口 勝彦）

- ・ 発言を終結する。
- ・ 理事者においては本日の質問の趣旨を踏まえ今後の対応を進めていただきたいと思う。
- ・ 理事者には御退室願う。

（経済部 退出）

- ・ 議題終結宣告

(2) 地域の人手不足に対する取り組みについて

○委員長（山口 勝彦）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、前回の委員会において、今後の取り組みの方向性について確認し、次回の委員会で、最終的な調査結果（案）を正副で作成させていただき、お示しすることとしていた。
- ・ 本日の委員会の進め方だが、調査結果（案）について、皆様から御意見を伺いながら、最終的な調査結果を取りまとめていきたいと思うが、いかがか。（異議なし）
- ・ それではそのように進める。
- ・ 資料の所管事務調査結果（案）をご覧願う。内容について御説明する。
- ・ 資料説明：函館市議会経済建設常任委員会 所管事務調査結果（案）（正副委員長調製資料）
- ・ 以上である。各委員から何か御発言あるか。（なし）
- ・ それでは、本件調査については、調査結果（案）をもって最終のまとめとさせていただき、以上で本件調査を終了したいと思うが、いかがか。（異議なし）
- ・ それでは、本件調査を終了とする。
- ・ なお、調査結果については、今後の取り組みの参考としていただくため、理事者に配付したいと思

うので、御承知置き願う。

- ・ 議題終結宣告
-

2 その他

○委員長（山口 勝彦）

- ・ 次に、2のその他だが、各委員から何か発言あるか。（なし）
- ・ 散会宣告

午前11時23分散会